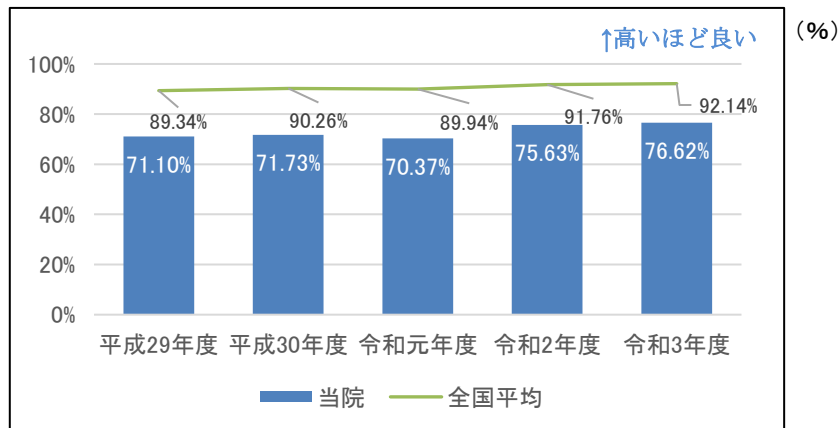


15 放射線科医がCT・MRIの読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合

○項目の解説

高度な医療を提供するためには、画像診断をより早く、より正確に行うことが必要です。放射線科医によるCT・MRIの画像診断結果が翌営業日までに提出された割合を表現する指標です。またCT・MRIが放射線科医の監督の下に適切に行われていることを示す指標ともいえるので、実施率が高いことが望めます。画像診断管理加算2または画像診断管理加算3(80%以上が算定要件)の施設基準を取得していない国立大学附属病院は数値が必然的に低くなります。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

CT・MRIの検査数は、著明な増加傾向が20年以上の間ほぼ継続しています(令和2年度は令和元年度より僅かに減少していますが、新型コロナウイルス感染症やMRI機器更新の影響と考えられます)。これに伴い読影率は減少傾向にありましたが、直近4年間では読影率はほぼ横ばいで推移し、70%以上をキープしています。

CT・MRIの読影を主体とする放射線診断専門医数は、令和4年10月の段階でわずか6名であることから、依然として厳しい状況が継続するものと予想されますが、引き続き良質な診断レポートの作成に尽力したいと考えています。また、将来専門医数が十分に増えた場合には、最終的に画像管理加算2ないしは3を取得できるように準備をしていきたいと考えています。

○定義

当該年度1年間の「翌営業日までに放射線科医が読影したレポート数」を「CT・MRI検査実施件数」で除した割合(%)です。「放射線科医」とは医科診療報酬点数表の画像管理加算の要件に従い、経験10年以上、専ら画像診断に従事するものを指します。

○算式

分子: 翌営業日までに放射線科医が読影したレポート数

分母: CT・MRI検査実施件数